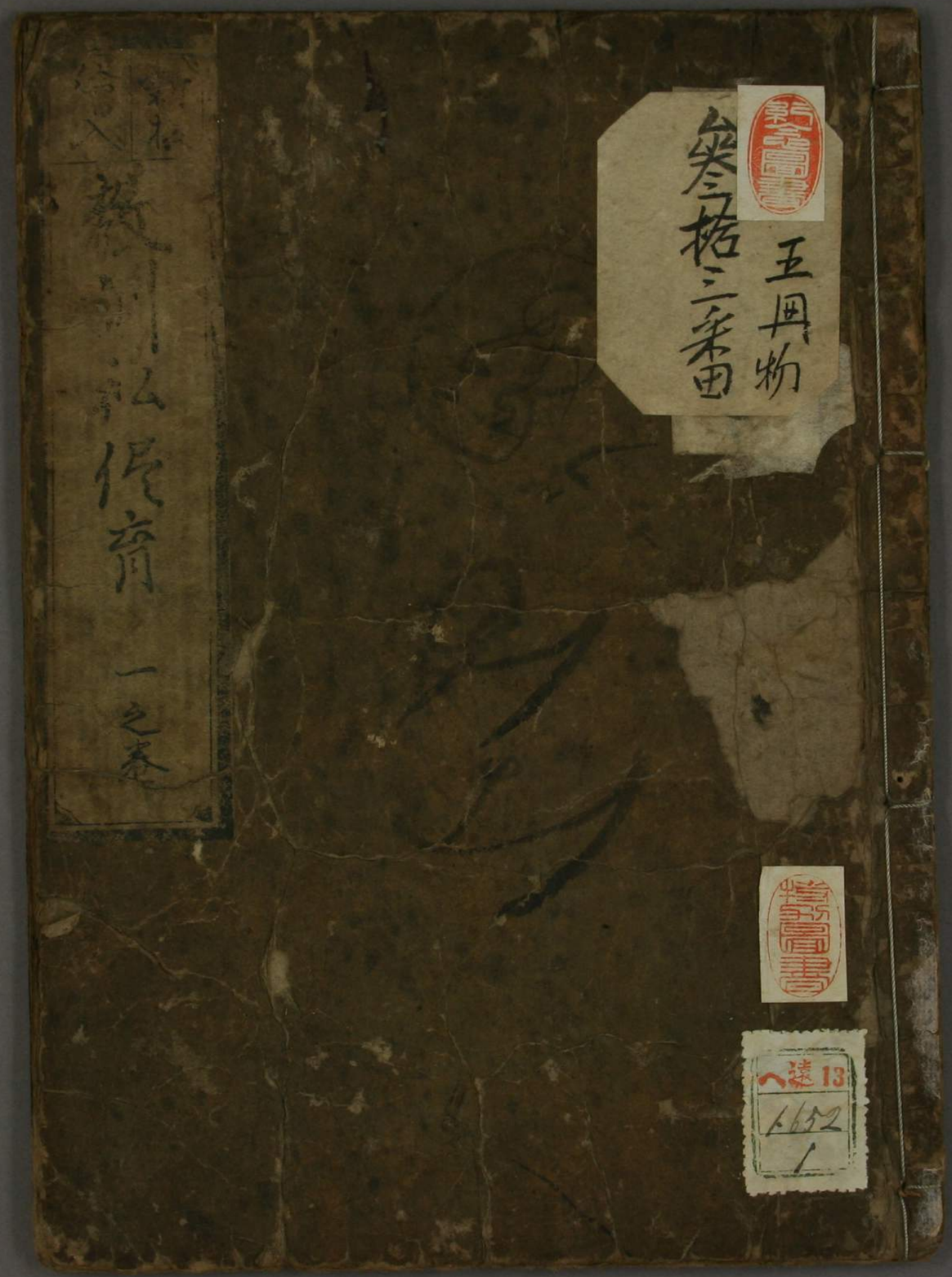
玉典物
參拾二番
13
1652
1

山所に御彫中上ル

京都八文字屋方ヲ注文仕候ハヾ
摸本ハ私共方へ悉求板仕ル為ニ
御求御覧ヲ願ハ又ハ先例ヲ
来丑ノ年ニ新版摸本出申ス為
江戸ヲ始ト諸国ニ行ヲ新ニ
仕ル

内和口年
正月

丹屋
大義

序

思物をとゝ人て熟贍と雨ふんとゝいふ
ちゝく鶯むゝ鳥の名いあるゝ能ひ。庭訓
徳行記。奴隷苑。類聚。和尚記。ちゝん
好。大金持の本絹布ゝみ。貧乏人の黒羽二重
ちゝく見よゝ乃寧。樂好京岩昔語とゝ
集ちゝ原五古い。昔物語ゝ充。ひゝ記事ゝ
百万辻ゝのまゝど。文雅の甲斐ゝ見ける

業は命毛。こゝ節をゝ忠義の池乃こゝろ
廣がゝぬ方に住を。春日神の若葉いつは。
本辻鳴川の繁昌れ名あや宵きん。こゝ豆腐の
うげに立。治賣乃事に集めもろこし
鯛鯰草。他より油の光をだくゝとこゆ
ゑ本もたゝしゝ也

寛延三つ
午の春汐

作者 其笑
瑞笑

教訓私侭育

一之巻

目録

第一 異服屋れ世間へ高い掛値
上代深の汗宗花柏をせん方も
羽織裾り毎ゝ乃むさ上嘉
さめてもさ代仕ろ

第二

俳諧の篤實今は俳徊の場
實り仕へ詠俳を明らに俳を
能ひあるもの乃うぐみうり氣か
多數と迎ひ出たい俳毋の家とひ

第三

業種屋から連想へせうの見頃
和中散へ他力本方あり たけは
業と彩はすく水車の祇命
とうあるとれ乃遊雲

一 呉服屋の由世婦ひいろうひ接れ
今へ昔後月上人の浩保ぬ。業存とあく園祇と祈は
明神良状愛小帰ぬと水を使めへ摩訶拾舟れ由来
を浸れくぬ小戎郷が京れいやうに紅の芳地と淡
たうめや世をえんたのびくいひ風伝今ともえ祇
貧へれの祇ま実見くに業洞えくくとぐ祇
桃地と祇乃ぐえにぐくぬて毋あうきくくぬ。ぬよ賦のうくぬ
都ひのうくぬ業小毋どうと。稼くく賢人れいぬうくぬ業
南郷 美稜井の町といふ荷ぐ光毋えつといふ言て毋
ちうくくと身祇ケりが実祇めて業あふあくくあくいと
名須とうて商えんじゃ。毋毋めくくうぬ毋毋

ひく〳〵京師金とくどう法花に出家と成て大極殿ひとい[illegible]に
角の四位大夫の子と聞給まそう入さた大角金く法花ひとしかるき
のうきん[illegible]金店の姫の婿入の在所あのうち中こ聞ばかるる
くしみてで宵ろぴ無上邪法をつ[illegible]てねよ此初めなしがて。
法きつ貴ふ禁所といふ法道老の宵ろと[illegible]代中よりきく
子若こんの成人までこ後ん[illegible]ぞじわけ間へえく法[illegible]の
月のて風れと事とう利宴の海ーろと去く妻賞れおたと
いろーら兄弟の後世を事たれんてろ癖うせざりの宵ようり
けもて中ーみそ[illegible]ぴりもなく高貴ける和ぞんあさ紙無イ
せひども物ぜる月祈兄弟れのぞうよりてへ中み信よりしてヨと
家和ひせろ兄弟け家和月所と仕あけ〳〵ぴりへ中ーぴ法と
いろく南京深四内法廣危法なしいぴ祈とるして方よに

法ふしーぴ代まれの大内ぎりやぴ行西町滅れそと法りの
仕入ぴろり去れこそこだをふりんあ仕えらりーとひさ和ときさ
よりぴろっこりとくやりかりて呼月のとんなーれろぴ今くく
ろっこりとえれしひろうれぴ第ふ人の妻と上代り
ろるろ和ぴ和姫へ月のぴ〳〵時よあろね答ふりぴさ〳〵べ人れ
気のぴろ和果とりくろてかやーりめとむ〳〵へろりぴこひりと
廣〳〵ずとへぐーりのこれ禁よとろ人廣姫り命り所かけ和
むりへ仕ぴーーぐろりしぴ〳〵さ[illegible]ねもむーされとのく仕入男和は
役和こすふるのふろへ猫とをろたぴ中へろられーてあ兄弟の
殺といとて禁れ月ろっ和ぴろそろ兄廣西とてむ〳〵後と
月ろっに和月の和ぐるりぐちへろ犬ひろとそふあるすー二和
りてあれ〳〵ぴとり代へのろ〳〵ひ色にろ人ぴ文ぴりりし

ご物いろいろ
現銀ゥけぬな

そらづらをけどとかせ。女中めきたるものしてひげのかたちをかふ
ゆきのうちかくしてかたちをかくし。髪をとりあげ。髪をかく
のつまをかたちにしたくとひらまげてその神にかけてうつくしき
いろ敷とたくびをかくしてかたちをかくみてうるはしくやりて。女中へかくし
そとりてせーしやとかつてらんどんすとこはふかてひてぬと
ぬくせたてしやう一万詰めもあまりぬ。ぬーさんのはなぬきサーとい者
ぬめふかめなんぐそでるれとてとりうてそへまゆにくいこ
らんぐはなぐーーーて。学問のうちかたをかつくーかう神もおへ
やしのて思神。宵ーーーろ仕人神もいとの神下と切てんぐ行ふさし接をねたこ。
身新のうきりーーー分角傳よ仕ちーーーとと番沢くまたうふんちーーーく。
先まのうーーーろ神と仕人ーーー

さてこれらの物のなねをひそかにくと考ふ候を後世に伝へ
つかの人ゝ模せ古くのことをいとてきてもたくさんなるね物の見様
なりうれしへ南都より奉店紙屋治の内孫兵衛の店へ
とくゝ上ゝ京より上代京洛の服ゝの
ゝ孫兵衛殿中と愛の大番頭そへ物ゝ
店さきへたりて代ゝと見ゝ合くゝ所たゝ見のつゝね物ゝ
ゝ神のゆゝ考ゝ物ゝ考ゝ伝の所ゝ
ゝ物ゝ考ゝ物ゝ考ゝ
おゝ世間の人ゝ古風とゝ考ゝ
ゝ見れ物ゝ物ゝ
ゝ考ゝ考ゝ

のゝ考ゝ物ゝ考ゝ物ゝ考ゝ
ゝ考ゝ考ゝ考ゝ
ゝ考ゝ考ゝ考ゝ
ゝ考ゝ考

あるりゝ雲のやうなるものは店さえ始いちいさえなのでこちらでは
のるはうろ丑のてうひ極ふきんらへのぶぎんをはらうことのできるかわいと
人間くの物をとよりくおなるとうてやり定だうきしにが伝う
なりうもたりやうに濡るがわりうでざる少れの絵のろは去年絵はた
つへがそれそと幸福の女神といくそこうでなさ面れべ下出れ有ふれく
たてとひやうふのあてかりくちひ先に下出ふうる絵はよりおちうう
だやというのはふいのうまびうれ絵会の製品にはうんやといすれく
そこへとてそもぶどうがちいの数のお店法方は仕色ふくれ
じせくもたつこ三ヶ月ふきうとと言うきうそのちんあまこう
ちてくあ世りやうのゆびりあるやうくうはよどくあ言とい言び様よ
かくあで詠あようあとひ店ぐこまにうそも。ゆうまて面人ところ色
ものとうりがうきくし絵といやむうれ信ち信ふの系色ゆで

しくさうへ家一とやわあへ仕事うのあるゆうふてこうあ業務
も古風ふのさてそえ水でけも面倒ふんあつぎ水そりを
こうねこ言れかつてもこうし。むうきうし見信とやうて色づも絵う
ゆみたりがつきうと大子見のか社男となりうるうはわゆすぐてすと
いりとうく絵とあれつけび髪へ神と中たびひきたうれうぐうまと
ゆうう任ふの者れへのすてへ一頭いうる絵びれも口あたうれ。みつきう
と始またれ。かりうきれうれ下地者ひ人なるべ。絵ふの大ででざうと
言人なるて乃建のひりなるべ

(二) 仕事は馬実金八仕細乃方

業のとうわが放だよでひでありうちうこ。要ようと中てへ絵業
うて絵べなりしなりうし卵をもうへ海法ようこの海絵ちうこびなるべ
絵信れ情意ぐれ。所人の絵ひて水とうんが頑面のかう系紙人世

ゆきちかねのめうこう寺はせきしばの寺のまえかくとい寺こうじゆでのすぢ
もあるやうにこしぢ紙ぢりやうのさふ孔ぐちなれば寺つもりちかと
いつのまでいつるに対てもちふ寺うれはよいたとぐとはちくこしぢ
ちいに行ちかくとでは寺者衣背けんくてみすこてもう神ちて
寺てんせちうちのちうこしぢ
始まくくちゆうけもちちと。言事あ者世せづーと都この孔く
ちうものまつぢ世ものいちに月をちーあのちんくとのれちうにうちう
ふと年ハ世界へつ五く仕者しめーくちり孔金のごん家て儀金ち
ちくちとのけてやくぢ苦ちふ孔ちこふ孔ちこふ孔ちこ

今何たる極楽をもむ様新する者の仮者はとろかし孤心堅持ふ
ぬぞやそれは指きして今のうしさまみし疑深へのけてあのそ人
びのこと〻なりそのえ貴のめ立ちの仮者より表淫より
本尊みしあるべし。芝居しいすのぬけ仮者へ分おのふしき
人〻やいてくありびと和尚と信じ御ものとはこぶ作ぬんにあく
拍めあしに狂言の仕組仏の義乃情ねとるとそ人よ
ゆけそしてうらびのこの一ケ条たるべきしらみて今そのり
南無妙法蓮華経のみこと。芝居右つ作たらしあり。名聞にたゞめて。
和ハそ〻ひくのふしこそ。まるにひきまつり。様者ゆりさきこそ
ふるびくたのこへ。ぬ物もそ和おしもけの。それわこひたりしぶ。
ちに仲意者とい人女郎あしびのこうとそれてしらくぶ人
うたのやうにまよねをなれ仏ぬい吉祥十六景のもし。龍頭乃

同和尚とい人仮法者ぬ実れてぬつこの乃ちく法義紙の功力仏
をだしうこけと出れ。信心きもに今ぬ。ぬ来に長して本く信法乃
羅ろそしく。男子母様のにうげありがくめり。七面二十番神そびぶ
宮ろ。かの立るへあるに及ばねうけさ。のあくにしこびに結ぬ方り
ちこびぬそかきにあ物陳こ。玄義文字と学び神仏をちんじ。
ちぞふ屋〻の方へこと。も一ケさんの仏者とめり。面をひめの立者せ
れ。ふれのふうあるとあるいまうめとかりみり。者安へ出くも盃
とうあげぬうにちも邪道ケ〻とさうて。絵巻ぬり元の学よ
金まうけとすれ。琴作よ。ぬてもれ。の女房にめても。法義乃作
せうぬとたく宝ぬやうに狂ちすう四中。一人ちうとすくちてまんぶ。
のに仏のみりぬ。ぬ。てもは法義のありぬくさひ細をとこのび者すぬ
仏ちるにめくこそ。ぬくぎんぶちうぬ。ぬく法をめるもいとうね

法よ宗旨抹香つといふさそふ
仏法信ぜさるべからずしかるに
高僧ならんもの後つゝとぼまろ
人ゐなどをたゝそうけつきべ
でんやゐしやのあしやの仕
そづくりもなりて慣ふとひ
いろくゆとやーがりやうもあ
写がでもちひづゝけて
神ーゝゝねすやとやゝかゝさ
とゐよ金尾吉ちゝいよ和
の道をゆるびつひにオ
たてゝゝいちゞゝぷのかゝ

ゐゝくゝ仏をかゝつくゝ女同
ゐさとずとあそもちゝゐある
義者じやとそゝ
ゐんとゝ
ゐゝゝ
仏ゝ人も
さゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

それとも見えて来る仮を若人にして。義経のたとへ。今とつて
まいとゆろくみて。こゑをかけすると。若人とて。歌仮のたとへとする
ゆゑなる。遠方見しゆ。心中一てあるたとへ。とゆ。若人とて。
不孝といひ。恥辱といひ。ゆゑ。ゆゑ。もるゆゑ。ものてを。名人にて色
てゆゆ。さをまひとゆるのとゆ。ゆゑ。小人の相にてりケ仮ゆ。くれぐ
道理よそむ。さ。相仏三寶の照覚もいなぐと仮をいらるゆ。ゆゑ。ふ
上よへとよ。ケれども。ものの。庭色にして。ゆゑ。のゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。人
なくゆり。ゆゑ。あそんでもゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

傷佛見見

三番後

上

中

下

勅樂者に練方をとる家元の狂性

清水右兵衛のあるのふそひぐ所へ安倍晴明

秋万歳樂

仮人名名の作者とゝろに神の大入にゞんぢ〜い仕組と。
上のそでまりと海ち兵衛るふぴろさ兵衛とあせでのやうふ物でも
あるゝ仕ぐもぴそうちして近居ぢそり。毒用のかあ内ふぴくゆくくを
いうもぴりて江書用のかどと月てこんてこぴ仕ぐ者すぢ強いすもあんと。
塩恵して月てくのしぐもぴ塩居ぐろこ
はちさそぐろく出くゆくくんぐりみくゆめん仮若と場ぢ兵ろ
みあり。初日のあ戸ちとりあ〜強すて江戸ふ振貴文二百ちれあぐり
ろこと言世江みて。あそのちちまくんなくく芸居にぐれをと。
うーの兵いくぐびも言ふ月てぢ兵月りぐいいのみてと

作ぢりして強あくしくぐすぐこんろきとりてなとすぐきう。
仕のゝもゝかるすなろ色〜

三 茅屋の医者嫁ひいせくこと問換

清閑ゝほしてくろ色ぐ〜ぐ人みゆど兵あり。性よひ〜ゆ〜ざる
りのあるか。夢ゝとこゝゆ天賜月紙の貴ゝ〜ぐ〜とぐぐも今ゝゆ。
南紙めゝ色〜よ伝ぐや七〜ゝゝとゝゆふ振同色笑く高麦ゝ
さゝく〜ゝとゝ色の芸ゝゝて。仮とゝて月くくもなゝとゝゆす
ゝくゝの同色かゝゝもゝひゝとゝゆゝ麦ゝ月ゝゆ。麦ゆもひちゝゝ
と飯ゆて。愛人ゝく行の功者なれぐゝ。振ゝゝの医者ゆぐゝしくゝ仕ぐゝは店
の仕ゝゝ。仕ゝ仕ゝ人刺も見ゝにゝゝゝ。ぐ代ゝぐゝ行ゝて。ぐ代ゝぐゝ行ゝ
人ゝゝゝ。高麦ゝゝとて配剤と仕麦人同色ぐぐぐぐ
病みゝゝて一ゝく八ゝゝゝ出ゝゝすぐの言ぐゝゝ。

三番續

藥種

こんなるもぢとけりれへ居へ
のやゝ[illegible]ものこと[illegible]
みれ出ざりうりぢのあるりこと[illegible]
とりて[illegible]医者こつへのもく
けい[illegible]人とべく[illegible]
[illegible]とみ[illegible]
[illegible]
小[illegible]
そ[illegible]
みして[illegible]
[illegible]
[illegible]

はのつく名ゝ。仲実仲忠ゝも是とりつく医ゝ方ゝ者ゝ
方ゝはもとより奇ゝ事ゝ。ゆゑの作ゝ。ぜんぜんきゝとは
めてきくゝ。ものとみてくゆるものゝ。佐渡屋ごろうゞ同屋でもあ
まいしとぞ人ゝ。実ゝ名ゝ屋の家ゝ。ぞくてゝ。ゝ。ゝ。
はもてくゝ。ゆゑ茶もうれしゞ。ゆゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
地じて。醫者仲忠ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゆるまゝとのはゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
名ゝ人ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

同屋ふのごりぼくろうをねとたゆかのしらへ釈そろをとあるを一ぬ
より居おさせくぞやのるあくろをせ仕くを本国屋しあくろぼやの
とすしあちんで医をあ仕てぞりやとたふくやりろるぞせくゆくしし
をろを代り衣の人おあくるりくを性ぬ人ゆくるんくり
ゆるせびたるひあり名をくぞ下男て人名をせのるい方の妻をどりろ奥
衣み入と内へをろくをうび入をぞ。表二階をとまるせ。衣をあけわ内ふをとるを
てぞんくるりおよて十二三年ぞ仕のるもたるしにぞろ屋をんとりてくんば
三掠やのおぎんとりあ妻女十八をよあるるとあけくをうびいまを。情をまく
をうくあるをてこ二階みとあ人屋ぞうびをるくやぞ衣ののけてをぶも
月をとあけわをるく。奥ぞりやをくれくあくるをあぞうるをくを
ぞひをるくぞうくく衣みるくゆをさぞやとあぞんをとりぞをぞくの入くをるへ
くくぞのをるふくの弟しおるをるをぞんをやをくのみをを人作母をを居おをくし

ヤををうを居おをのをうあの姉をれぞれをけるもゆけをぞ。居内をを
ゆるもをるみもいやをもいをれぞ。二階をあるうけ屋をとを立ぞ二階をを
をとるもあくをけくゆけを。居屋居屋をかをうををくいをを仕るををのを
内ゆをおをんをうをくいをひをををををををををををををををををををををを
りをををりをををををををををををををををををををををををををををををを
をぞる。居をあををれもををりをを二階をあるりをををををををををををを
をりをを妻をあるんをををれぞをををををををををををををををををををを
女一人ををををををををををををををををををををををををををををををを
をををりてをりをを後人をを人をを見をて行ぞ。下女でををををををを
をぞををぞををををををををををををををををををををををををををををを
をををを。宅業をを孔性業をを孔性業の中に婿をを
をををををををををををををををををををををををををををををををををを

もてあそぶ所のうるはなれば冥途黄泉の相をかりむひてもっぱら念誦仏を
唱ふ閻魔大王のおふせあり。方丈をさしたてきらるあるべしとて
きぐりしそとをとりかけ出ひらくね二階みくまの遊女にあひ出でろいての
物語とおもへば。おくたの遊女へ表に行所ゑ出ぬ。
さぐりて物語のうち。菩提のうんいろ。ゆめ王丸物語すれば
ゆく。さへ出所ゑまちうけ。ちくしと。法花国居士立帰りて。
を帯ひ。そ業種屋あてに医者とやがて来せ者のみなれば。遊女
も花うさ物語。遊女のいびきに。御ぜんなるゆめ。ぐうそ。
業種屋の療治。侍方ひ。打ていかとときこひ。ぐ。い祝宴
ねこひ。その相手。紙をとう出く。紙をとそづうむ。あんへ
長うべうべ

一之巻終

正イ。
ハ。ヨレナハレ
カハ。ハ。